

私たち桜井地区のキャッチフレーズは、「**尊徳の教えが**生きているまち」です。
桜井まちづくり委員会では、二宮尊徳先生の教えをもとに各種の活動をしています。
今回は、二宮尊徳先生の教えの一つとして、「報徳訓」「積小為大」を紹介します。



報 徳 訓



報徳訓は、二宮尊徳が自分の考えである報徳思想について分かりやすくまとめたものです。人が生きていくあり方を具体的に示した報徳訓は、農民層にも広く浸透しました。

《報徳訓》

父母根元在天地令命 身體根元在父母生育
子孫相贖在夫婦丹精 父母富貴在祖先勤功
吾身富貴在父母積善 子孫富貴在自己勤勞
身命長養在衣食住三 衣食住三在田畑山林
田畑山林在人民勤耕 今年衣食在昨年産業
来年衣食在今年艱難 年々歳々不可忘報徳

百八つの文字で表された報徳訓を読み下すと次のようになります。

《報徳訓 読み下し》

父母の根元は天地の令命に在り 身体の根元は父母の生育に在り
子孫の相続は夫婦の丹精に在り 父母の富貴は祖先の勤功に在り
吾身の富貴は父母の積善に在り 子孫の富貴は自己の勤勞に在り
身命の長養は衣食住の三つに在り 衣食住の三つは田畑山林に在り
田畑山林は人民の勤耕に在り 今年の衣食は昨年の産業に在り
来年の衣食は今年の艱難に在り 年年歳歳報徳を忘るべからず

報徳訓の意味 《報徳訓とは》

報徳訓は二宮尊徳先生の教訓である。先生は次のように考えた。「人は天地の恩徳と、親、先祖の恩徳によってこの世に生まれることが出来、いろいろなもの恩徳によって生かされている。その恩徳に報いることが報徳であり、人の道である」と。

我々が豊かな暮らしが出来るのは、先祖の努力のお陰であり、我々の子供、孫に豊かな暮らしをさせるには、我々が一生懸命働かなければならない。

長生きをするには、衣食住のバランスをよくしなければならぬし、衣食住を良くするためには、それらをつくってくれる田畑、山林を良く手入れしなければならない。

今年の暮らしは昨年働いたもので、来年の暮らしは今年働いたもので、というように余裕をもって暮らすべきである。

このことは何時の時代になっても変わることがないので、すべてのものに感謝し、すべての徳に報いる、すなわち「報徳」のこころを忘れてはならない。

積小為大 (せきしょうだい)

小さな努力をこつこつと積み重ねていけば、いずれは大きな収穫や力に結びつくという教え。
大きなことをなしとげるには、まず、小さなことをおこたらず、行うことが大切である。とかく人間は、小さなことをきらい、大きなことばかりに目がいくけれども、大きなことは本来小さなことの積み重ねであり、小さなことをおろそかにするものは大きなことなどなせるわけがない、小さなことをおこたらず積む努力をしなければならないという尊徳の教え。